

# 総務省が私たちの『舞台』

メイン・ステージ



行政評価、統計、地方自治、消防、情報通信、放送…さまざまな分野を所掌する総務省、その現場で活躍する若手職員の“今”をご紹介します。

**座長：**本日はお集まりいただきありがとうございます。今回で3回目となるこの企画ですが、お読みになった受験生が総務省を身近に感じることができる企画にしたいと思いますので、みなさんのお考えを率直にお話いただければ幸いです。まずは順番に現在どんなお仕事をされているかお話し下さい。

**石川：**私は、現在、皆さんのご自宅まで引かれている電話回線や光回線を用いてビジネスをする事業者間の公正な競争を促進する仕事に携わっています。具体的には、回線や設備の使用料金が適正な価格となるよう、これらの回線を所有している事業者に関する様々なデータを分析したりしています。事業者間における競争が進むことで、皆さんがインターネットに接続する際にお支払い頂く月額使用料などにも密接にかかわってくることになります。

**野口：**私は消防関係の地方財政措置や地方交付税のとりまとめを担当しており、小規模な自治体であっても消防が運営できるよう財政面での支援をしています。昨年は東日本大震災の後も大きな余震が頻発しましたので、危機管理センターに非常参集するなど採用1年目から責任ある仕事に緊張感をもってあたって来ました。

**染谷：**私が所属する行政相談業務室では一般の方から行政に関するご意見ご要望を伺って、それを反映させる仕事を行っています。国の行政機関でありながら国民の皆さんと直接触れ合う機会のある職場です。各地方事務所での対応が困難な事案については我々が取りまとめ、有識者会議に諮ったうえで「あっせん」という形で関係府省に改善の働きかけを行っています。

**新崎：**私が携わっている仕事は、固定資産税のうち償却資産とって、企業が所有する機械設備や電車、飛行機などの評価決定を行っています。固定資産税は市町村税なので、本来であれば各市町村で評価決定を行うのですが、規模が大きい設備などは市町村が評価することが難しいため、私たちが実際に所有者からお話を伺ったりしながら評価を手助けしています。

**尾形：**私の主な業務は電話番号を事業者に割り当てることです。たとえば、固定電話の番号がある地域で足りなくなった際は増やす措置を行ったり、市町村合併の結果、同一市町村でありながら市外局番が異なっている場合などに、市町村からの要望により番号を統一したりしています。最近ですと、携帯電話の番号が足りなくなったため、今までPHSに使用してきた番号「070」を携帯電話にも割り当てられるよう措置しました。

**白土：**私は平成25年に予定されている住宅・土地統計調査の企画・運営に携わっています。実際に皆さんにお届けする調査票に記載する調査事項を決めたり、どうすれば取りまとめを行う市町村が円滑に事務を進めることができるかなどを検討したりしています。今年は試験調査を行うのでその準備を進めています。

**座長：**ありがとうございます。ところで、皆さんはどうして数ある省庁の中で、最終的に「総務省に入ろう！」思われたのでしょうか。総務省に決めた理由をお話しいただけないでしょうか。

**染谷：**私は、一言で言ってしまうと「フィーリングが合ったから」です。採用説明会や面接で出会った職員の皆さま

尾形 知子 (平成22年度採用)

Satoko Ogata



総合通信基盤局電気通信事業部  
電気通信技術システム課番号企画室

石川 秀樹 (平成22年度採用)

Hideki Ishikawa



総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課

んはいい人たちばかりで、業務説明や質疑応答に非常に丁寧に対応してくれました。それによって、業務の詳細についてよく理解できたのはもちろん、こういう人と一緒に働けたらいいだろうなあ、とイメージできたことが大きな材料になりました。

**座長**：実際に働いてみて、そのフィーリングは間違っていないませんでしたか。

**染谷**：毎日楽しく働いているので、間違っていなかったと思います。説明会等で職員の方の生の声をたくさん聞くことができたので、自分に合う職場を見つけることができたのだと思います。

**新崎**：私は地方公務員になるか国家公務員になるかで迷っていたのですが、総務省では地方自治を所管している部局があって、地方の立場にも立って仕事をする事ができるということを官庁訪問を通じて知り、最終的に総務省に決めました。国の立場だけではなく、県庁や市役所等への人事交流の機会もあると聞いているので、地方の立場からも仕事をできる点が大きな決め手となりました。

**座長**：総務省では国と地方、両方の立場を経験できるとのことですが、両方で大きく異なる点はどのようなところでしょうか。

**新崎**：特に国の仕事は大きく広範な影響力を持っている点だと思います。入省して間もない私も責任のある仕事を任されることがあるので非常にやりがいを感じています。

**野口**：私の出身地は人口流出が激しい地域で、問題意識を持ち地方自治に興味がありました。地方自治体も併願していましたが、このような問題は私の出身地に限った問題ではないので、日本全国と同じような問題を抱える数多くの地域のために働ける総務省を選びました。

**座長**：日本全体のために働きたいと考えたのはどうしてですか。

**野口**：個別の問題を解決するためには、一部の地域にとどまらず、広い視野に立って日本全体で物事をとらえる必要があると考えました。

野口 貴博 (平成23年度採用)

Takahiro Noguchi



消防庁消防・救急課

新崎 可奈子 (平成22年度採用)

Kanako Arasaki



自治税務局固定資産税課

**尾形**：私は民間の就職活動も行っていましたが、学生時代に勉強したプログラミングを活かしてみたいという思いや、人のため、社会のために働きたいという気持ちもあった中で、総務省が技術系の採用を行っていることを知って、電気通信分野であれば自分の知識を活かせるなと思い、総務省を志望しました。

**座長**：普段の仕事を通じて「人のため、社会のために役立っているな」という実感はありますか。

**尾形**：市外局番の統一は市町村が一体感を維持する上で重要なことだと考えていますが、統一が実現した後、市町村の職員がわざわざお礼に来てくださったときは「頑張ってたよな」と思いました。

**石川**：私の場合、就職活動は国家公務員一本に絞って行っていたのですが、具体的にどこの省庁を希望するかは、複数の省庁を訪問する中で決めました。総務省では面接してくれた方が、私の興味を持っている業務について、懇切丁寧に教えてくれて、「自分もそんな仕事をしたい!」と具体的にイメージができたことが大きかったと思います。

**座長**：面談を進めていく中で志望が強まったということでしょうか。

**石川**：はい。今携わっている仕事はまさに自分が興味をもって臨める仕事であって、その興味が総務省への「縁」につながったと思います。少しでも情報通信分野に対して興味をお持ちの方は、是非、総務省にお越しいただきたいと思います。

**白土**：私は「統計」という数字を全国的に比較できるところが総務省の魅力だと思いました。総務省以外の統計は施策立案のための小規模なものが多いのですが、総務省では標本数も多く、規模も全国的に実施しているのが様々な場面で活用できるという点は総務省ならではの点だと思います。

**座長**：学生時代から統計に興味をお持ちでしたか。

**白土**：好きなテレビ番組で紹介されるデータの根拠として、

いつも「総務省統計局」と画面に表示があり、それで興味を持ちました。大学の専攻は統計関連のものではなく、採用前から統計の専門知識があったわけではないので勉強しながら頑張っています。

**座長：**皆さん、様々な思いを持って日々業務に励んでいるようですが、仕事ではストレスを感じる時もあるのではないのでしょうか。次は皆さんの「息抜き」の方法をご紹介します。

**野口：**私はランニングをしています。職場にもランニングを趣味にしている方がいるので、業務時間後に一緒に皇居の周りを走ったりしています。

**尾形：**平日できないことをするという意味では朝、遅く起きるということでしょうか（笑）。あとは、近場まで家族やペットを連れてドライブする中で、家族と話すことが楽しかったりします。

**石川：**休日は家でゆっくり音楽を聴いたり、友達と遊んだりしています。あと、ネットでレシピを検索して、翌一週間分の弁当を作ったりするのが最近のマイブームです。

**白土：**私はとことん習い事をやっていて、茶道、料理、ホットヨガに着付けもやっています。平日はランチで同僚や友人としゃべってストレスを発散しています。

**染谷：**私は休日、ネットで面白い動画を探したり、高校まで野球をやっていたので友人と野球したり、あとはバイクが好きで、山梨や静岡の方まで出掛けたりすることもあります。

**新崎：**休日はゆっくりすごしたり、掃除をしたりして過ごして、お酒が好きなので夕方からは知り合いと飲みに行ったりすることが多いです。

**座長：**皆さんそれぞれに楽しい公務員生活を送っているようにですね。では、仕事面、プライベート面でのお話を伺ったところで、それらの生活と総務省に入る前に持っていたイメージとのギャップなどがあれば教えてくださいませんか。

**白土：**そうですね、やはり、採用一年目なのに与えられる

白土 香織（平成23年度採用）

Kaori Sirato



統計局統計調査部国勢統計課

染谷 頼成（平成23年度採用）

Raina Someya



行政評価局行政相談課行政相談業務室

仕事の大きさに驚きました。地方自治体の方に委託するための費用の計算など、「今回は比較的金額が小さいから」と言われて任された額が予想以上に大きかったので緊張しました。

**座長：**本省の仕事は裁量の幅が大きいのが特徴ですね。

**石川：**私は、関係事業者と打合せをしたり、ヒアリングをしたりしていく中で、若手職員でも世の中が行政に対して求める新しいニーズをこれほどまでリアルタイムで感じることができる仕事に携われるとは、入省前は思いもよりませんでした。

**座長：**定型的な仕事だけではなく、新しい事態にも対応していく必要がありますね。

**石川：**そうですね、既存の答えの中から選択するのではなく、新しい答えを創り出していくことが現在の仕事の醍醐味ですね。

**尾形：**私は、今の部署に配属されたときに電話番号の割当てのような事細かいことまで総務省がやっていることに驚きました。配属後すぐに市外局番の変更に関する業務を任されたので、正直、「私がやっちゃっていいのかな？」と思いながらもがんばりました。

**座長：**市町村合併に伴う市外局番の変更などは件数も多く大変だったのではないのでしょうか。

**尾形：**はい。変更によって多くの利用者が影響を受けるので緊張しました。

**野口：**私が消防財政に携わっている中で強く実感するのは、金額の大きさもさることながら、採用から間もない自分であっても様々な分野において責任を持って任せてもらえるということです。

**座長：**入省した時期が震災直後だったと思いますが、平時とは違った対応も求められたのではないのでしょうか。

**野口：**そうですね。首相官邸の危機管理センターに行って会議資料の準備をしたり、大きな余震が生じた際には非常参集したりしましたが、日本全体が大変な時期だったので何とかしたいという思いで頑張りました。

**新崎**：私は実際の職場の雰囲気ギャップを感じましたね。公務員というと「お堅い」イメージがあったのですが、上司と部下で議論しながら方針を決めたりすることもあるので思っていた以上に活気のある職場でした。

**染谷**：私は体力的にもっと厳しい職場だと思っていましたが、当初思っていた程ではなかったです。もちろん、担当業務によって様々であり、体力的にきつい業務や責任の重い業務に就くこともあるのでしょうけれども、それもやりがいにつながるんだと思います。

**座長**：それでは最後に、将来、どのような職員になりたいか聞かせてください。

**染谷**：まだ半人前なので、とにかく今は早く一人前になりたいです。

**白土**：「常に謙虚であれ」と思います。地方自治体の皆さんの協力があってこそその仕事なので。

**野口**：上司、部下を問わず、より信頼される人間になりたいです。この一年の業務経験を通してそう感じました。

**新崎**：総務省は所掌がとても広いので、広い視野をもって様々な角度から物事をとらえられるようになりたいです。

**石川**：今の上司のように幅広い知識を持った、熱い行政官になることを目標にしています。(笑)

座長：市川 憲史

Norifumi Ichikawa



大臣官房秘書課人事第三係長

**尾形**：これから入ってくる人に知識や経験だけでなく、志や先輩ががんばった努力なんかも伝えられるようになりたいです。

**座長**：ありがとうございます。今回の座談会を通して、受験生と総務省の距離がだいぶ縮まったのではないのでしょうか。これをお読みになった皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。

